

# あなたの家の防犯診断を試してみませんか？

市内において、個人住宅における「空き巣ねらい」などによる侵入犯罪の被害が依然多発しています。「うちは防犯に気を遣っているから大丈夫」という方、また逆に「うちはいつも留守が多いから泥棒が心配だ」という方、防犯診断をしてご自宅の安全度をチェックしてみませんか？

質問	チェック欄	説明
わずかな時間でも家を空けるときには必ず鍵をかけますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	ごみ捨てなど、近くまで外出したわずかな隙に泥棒が入ることもあります。鍵をかけることは、防犯の基本です。
家を空けるときは、必ずお隣に一声かけますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	泥棒は、人の目を気にします。見かけない人や怪しい人がいたら、お互いに注意しましょう。
普段見かけない人を見かけた時などに「こんにちは」などと地域ぐるみで声かけをしていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	泥棒は、犯行前に声をかけられたりすると、犯行をあきらめてしまう傾向にあるという統計があります。
誰かが家にいるときでも必ず鍵をかけますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	家人がいても油断大敵です。家人が泥棒に襲われてしまうこともあります。
玄関などの泥棒が侵入可能な場所の見通しは確保されていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	見通しが良ければ、泥棒も人の目が気になり、仕事やりにくくなります。
家の周辺に、侵入の足場になるような物を置かないようにしていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	泥棒は身軽でどこからでも侵入します。足場にできるような物を置かないようにしましょう。
庭や家の周辺の通路などには、歩くと音がする砂利などを敷いていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	泥棒は、音がする場所を気にします。不審者などが入ったとき、音がするよう庭に砂利を敷きましょう。
玄関のドアは、ワンドア・ツーロックになっていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	錠前が2個以上あれば、泥棒も開けるのに時間がかかります。
玄関などの錠前は、ピッキングに対応しているものですか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	例えば、(財)全国防犯協会連合会が認定しているC P - Cの錠前用のシリンダーなど、ピッキングに強いものをつけましょう。
玄関などの錠前は、カム送り開錠の対応をしていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	新手の手口で、被害を未然に防ぐために早急な対策が必要です。各種対策部品があります。
玄関などのサムターンをサムターン回しの対策品に取り替えていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	人の手以外では回しにくいサムターンやサムターンをカバーするなどの対策品があります。
玄関などのドアにこじ破りなどを防ぐガードプレートを設置していますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	ガードプレートでドアの隙間を塞ぎ、パールなどが入らないようにしましょう。
窓や玄関などのガラスを防犯ガラスにしたり、防犯フィルムを貼っていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	防犯ガラスは、板ガラス協会が定めた基準に適合した合わせガラスや複層ガラスで、割れにくいガラスです。
窓に補助錠を設置していますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	補助錠が設置されていれば、窓が開けられるのに時間がかかります。
窓にロック付きクレセントを設置していますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	ロック付きクレセントが設置されていれば、窓が開けられるのに時間がかかります。
人が近づくと光るセンサーライトや防犯カメラを設置していますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	人に見られる可能性があるため泥棒は仕事がしづらくなります。
ドアや窓にセンサーを取り付けていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	ドアや窓が開くとセンサーが働いて、警告音を出すものや携帯電話で知らせてくれるものもあります。

## ◎診断結果

「はい」が0～6個 → 注意しましょう。泥棒が真っ先に目をつけます。

「はい」が7～10個 → 少し不安があります。さらに対策が必要です。

「はい」が11～13個 → かなり対策が進んでいますが、もう少し対策が必要なようです。

「はい」が14個以上 → 対策は十分です。しかし、泥棒はわずかな油断を見逃しません。新しい手口を次々と考えてきます。常に防犯に気を遣いましょう。

○診断結果は、あくまでも参考です。泥棒は手口に対する防犯対策が行われると新しい手口を考えて侵入しようとします。また、最近では組織的な犯罪も多くなったため、新たな手口はあっという間に広まります。常に侵入犯罪の手口や防犯対策を知り、対策をとりましょう！

この防犯診断は、市のホームページにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。

■問合せ 危機管理課 ☎(20) 3056

# ノロウイルスによる感染性胃腸炎 にお気をつけください

■問合せ  
健康増進課 ☎(24)5770

インフルエンザ同様、冬に流行する代表的感染症の一つが、ノロウイルスによる感染性胃腸炎です。

加熱が不十分な二枚貝などの食物が原因となる場合も多ありますが、患者のふん便や嘔吐物を処理した際に手を介して経口感染してしまうことはさらに多く見られます。

ノロウイルスは、感染力が非常に強いため、少量を飲み込んだだけでも、おなかの中で増殖し、腹痛や下痢、嘔吐といった消化器症状を引き起こします。発熱も多く見られますが、通常は発症してから約3日程度で回復します。しかし、嘔吐や下痢による脱水には注意が必要です。十分な水分の補給を行ってください。また、高齢者では、嘔吐による窒息などにも注意が必要です。

## 【予防方法】

### ○しっかり手洗い

最も必要な予防法。帰宅後や食事の前などには石けんを使い、指先から指や爪の間、手の甲まで、手全体を流水で20～30秒くらい洗いましょう。トイレに行ったとき、排泄の世話をしたときなどは特に丁寧に洗いましょう。

### ○調理器具は清潔に！

生肉や魚介類に触れるまな板、包丁、ふきんなどは、使用後に熱湯で消毒し、よく乾燥させること。

### ○十分に加熱調理を！

特に牡蠣やアサリなどの二枚貝には、ノロウイルスがついている可能性があります。中心部を85℃以上で1分間以上加熱するのが基本です。

## 【感染してしまったら…】

ノロウイルスに対する治療薬はありません。感染したら、以下のことに注意し、十分に体を休め、症状が重い場合は、すぐに受診しましょう。

### ○脱水症状に気をつける

下痢や嘔吐を繰り返すことで、体内の水分が大量に失われることも。経口補水液などをこまめに飲んで、水分と塩分を補給するようにしてください。

### ○下痢止めは自己判断で使わない

排便を止めると、ウイルスを体内にとどめてしまいます。ウイルスを排出したほうが回復が早くなります。

## ふん便おう吐の処理方法

- ①ペーパータオルなどで外側から内側に、ウイルスを飛ばされないように静かにふき取る
- ②ふき取った汚物や汚れたおむつなどは、すぐにビニール袋の中に入れきちんと縛って捨てる  
ビニール袋には、消毒液0.1%を染み込む程度に入れ消毒するといっそう効果があります
- ③汚染された場所は、0.02%の次亜塩素酸ナトリウムを浸した布などで拭き、10分程度たったら水拭きする

### 【次亜塩素酸ナトリウム消毒液はペットボトルで簡単に作れます】

台所用塩素系漂白剤(5%の漂白剤)をご用意ください。

- ・通常のお掃除(調理器具やドアノブ、手すりなど)用(0.02%)の消毒液の作り方  
ペットボトル(1ℓのもの)に水を入れ、キャップ1杯(5ml)の漂白剤を加えます
- ・汚染がひどい場所(おう吐・ふん便が付いた床)用(0.1%)の消毒液の作り方  
ペットボトル(500mlのもの)に水を入れ、キャップ2杯(10ml)の漂白剤を加えます

※使用するときには十分な換気を。また酸性のものを混ぜあわせてしまいますと有毒な塩素ガスが発生するので、絶対に混ぜないでください。

作る際にはビニール手袋などを着用してください。皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で十分に洗い流してください。